

さて、1、2学期の出雲養護学校の地域と連携した学習について振り返ってみます。1学期は、児童生徒が、地域の人・もの・ことと出会う時期でした。植物で言えば、種まきの時期です。神戸川太鼓や神楽などの伝統文化、神西小学校や神西コミュニティセンターなど地域の要となる資源、出雲市の地域課題といった地域の本物との出会いの中で、子どもたちは、地域に関心をもち、学びの芽が出



地域連携推進部長
主幹教諭 菅

地域とカラフルにつながろう

、の子らを
世の光に

始めました。

令和4年12月20日
発行
島根県立
出雲養護学校



出雲養護学校HP

1学期の後半には、これらの学習の様子をいざよう魅力化委員会で報告し、委員の皆様と「授業における地域の方のWINとは?」という視点で意見交換をしました。委員の皆様からいただいた「地域のことを子どもたちに知つてもらうこと」にまつづいた、「アーバン・リガーブル地城に

出ていくことが大切」。「子どもたちとかわることがとてもうれしい」といつた言葉は、まるで水や栄養のようで、学校の授業実践の後押しとなりました。

の中で、地域連携推進部は、地域と学校をつなぐ窓口として、地域とのかかわりを広げ、深める役割を担っています。私は、この役割を通して地域のさまざまな方に出会う機会が多く、地域の方が学校に関心をもつてくださっていること、教育活動に協力したいという気持ちを伝えにくださることをとても心強く思い、感謝をしています。

より、もつともつとです。」という言葉を生徒たちに伝えてくださいました。そして、ある生徒は、「セルジオさんに食べてもらつてうれしい。」と、笑顔いっぱいでのんびりと話されました。セルジオさんとの出会いを通して地域の課題を知り、その解決に向かつて考え方行動してきたことが、この温かいやりとりとなつて実を結びました。

これは生徒の営業日の振り返りシートに書かれた言葉です。高等部では毎月2～3回のペースで営業日を行つて地域の方に学校に来ていただき、食事・喫茶サービスの提供や洗車サービス、漬物、クッキーなどの作業製品の販売を行つています。コロナ禍で来場者の制限などもあって、この2年間なかなか思うような形で実施ができていなかつた営業日ですが、10月末より地域の方にも来場いただけるようになつて



地域連携コーディネーター
教諭 和田 成弘

学校と地域をつなぐ営業日

「お客様が褒めて
くれる。それを聞く
とみんな忙しくても
がんばれる」

だんだん食堂で久しぶりに再会し話に花を咲かせている場面に遭遇しました。コロナ禍で出かける先が減った方々にとって営業日が交流の場になることも、学校が地域に貢献で生きるひとつの形ではないかと思います。また、今年食堂サービス班が食堂で提供している「カラフルスープカレー」は地域課題解決学習で出会つたアグロブラジルさんのキヤッサバやビーツを使った料理です。食べていただくことで、アグロブラジルさんの夢である「キヤッサバ芋を出雲

営業日が学校と地域、双方にとつて大きな意味をもつのは営業日の日の学校の中にたくさんのがんばりが見られるからです。児童・生徒本人が直接校外の人に会うつながりもあれば、展示作品や作業製品を通してのつながり、そしてお客様同士のつながりもあります。先日、地元の方で来場して、たどりつけた祭りで

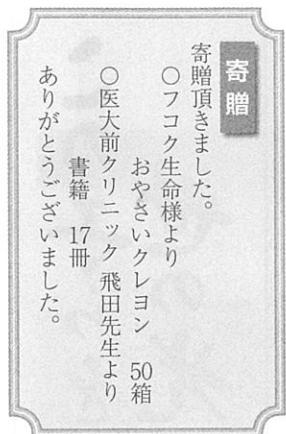
されているイタリアの小さな街の教育者ローリス・マラグツィが創った詩「でも、100はある」では、「子どもの遊びが学びがあること、多様な対話から遊びが創り出されること」の大切さが伝えられています。

この詩を踏まえて、出雲養護学校の地域と連携した学習を振り返ってみると、学校をとりまく地域には、たくさんの遊びの種、その種を育ててくださる多様な人との対話があることに気づきます。児童生徒の個性を大切にした遊びができるとてもすてきな環境です。

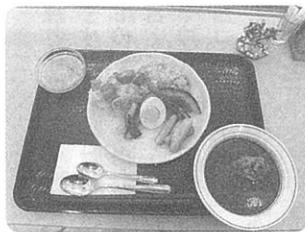
これからも、このカラフルな地域とともに、一人一人の個性が輝く遊びの実現に向かっていきたいと思います。

されて います

営業日は学校の取組を直に地域の方に体感していくだけ貴重な機会であり、生徒たちにとっては地域の方



今年、出雲養護学校はすべての学部、分教室で地域とのつながりに力を入れて活動をしています。地域の人・もの・ことの力を借りて授業を一層魅力的なものにするはもちろん大切です。ですがそれだけで終わるのではなく、学校と地域がつながったことによって地域に還元できるものが生まれること、つながりがまた新たつながりを作り、地域全体に広がっていくこと、そうした思いももって取り組んでいます。営業日はそのひとつのかたちとして、とてもよい進化を遂げていると感じています。営業日に来られたことがない方、ぜひ一度足を運んでみてください。そして私たちの「つなぐ」を実際に感じていただけたら、うれしいです。



の人に食べて
学校がお客様
とキヤツサバ
をつなぐ架け
橋になれたこ
とはとてもう
れしいことで
す。

「各学部の目指す姿」としてまとめ、来年度からの授業や教育活動に反映させていきたいと考えています。



人としての地域生活が始まる頃には、自分の可能性を切り開き、魅力的な個性を發揮しながら豊かに生活できる人になつていて、ことを願っています。



夏期休業中に校内研修として本校寄宿舎・各分教室の先生方が本校に集まり研修会を行いました。感染症対策で密を避けるために、全校の教員を14グループに分けてグルーブワークを行いました。大規模校の「いよいよ」ならではの活気ある研修会となりました。

第1部では、それぞれの学部や分教室などで行われている授業実践についての報告会を行いました。普段はなかなか見に行くことができない他学部や他分教室の授業について意見交換ができました。

指す児童生徒像「地域で生きる人になる」ために、小学部・中学部・高等部のそれぞれの段階で、どのような子どもを育していくかについてグレードで

「地域で生きる人になる」を

研修部長 藤岡里恵

個性を生かしてつながろう

進路支援部長 山根育子

研修部より

進路支援部より

小学部の地域との

小学
四年级

取組について

小学部教諭 吉村理美

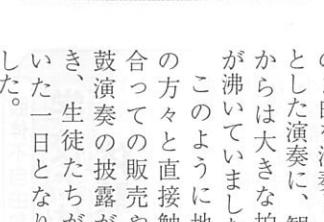
小学部では、毎年神西小学校との交流及び共同学習を各学年で行っています。この交流は、昭和60年から続く歴史ある交流学習です。近年は感染症対策もあり、例年は年間2回行っている直接的な交流の回数は、年間1回と減っていますが、手紙やりモートなどを活用した間接的な交流を活用しながら工夫して行っています。交流する回数は少ないので、交流日を本校の児童は心待ちにしており、交流当日は、普段関わることのない違う学校の友だちに緊張しながらも、とても楽しみながら活動に取り組む姿が見られます。6年間継続して取り組むことで、低学年段階では新しい仲間との出会いを大切に、中学年段階では、顔見知りになつた仲間との関わりを大切に、高学年段階では、お互いに同じ地域で生きる仲間であるという意識を深める、というように児童の成長に合わせて、学びを深め合う、両校にとってとても意義のあるよい機会となっています。今後もこのよい出会い、機会を大切にしていくことがでできればと考えています。



大田分教室小学部では、「地域の方と一緒にWIN-WINで行う授業作り」の一環として、地域の伝統芸能である石見神楽に取り組むことにしました。石見神楽を実際に見たり興味をもつたりする児童もあり、身近な地域の伝統文化に触れ、そのよさを実感できる機会になると考えました。そこで、大田の大江高山神楽社中の和田さんに来ていただき、地域の伝統芸能石見神楽をテーマにした授業に取り組みました。

和田さんからは、石見神楽の映像や実際の道具を使い、分かりやすくお話をいただき、児童の実態に応じた道具作りや制作指導、最後の発表会までつなげて一緒に分教室神楽を作っていました。授業を通して、自分からやりたい、かつよく舞いたいという児童の姿をたくさん見ることができました。

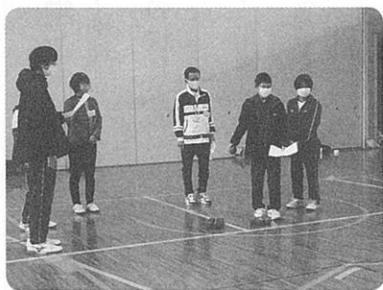
和田さんからは、石見神楽の映像や実際の道具を使い、分かりやすくお話をいただき、児童の実態に応じた道具作りや制作指導、最後の発表会までつなげて一緒に分教室神楽を作っていました。授業を通して、自分からやりたい、かつよく舞いたいという児童の姿をたくさん見ることができました。



11月19日（土）に行われた邇摩高フエア（販売会）で、邇摩分教室の各作業班の製品を販売しました。農業班は農作物と焼き芋、手芸班はSDGsを意識した小物製品、調理班はケーキを販売しました。今年は人数制限がなく、地域の方々が大勢来られ、各作業班の製品をたくさん買ってくださいました。今年初めて行った焼き芋は大人気で、焼き方を聞かれた生徒は、丁寧に説明をしていました。また、レジ・読み上げ・袋詰め・品出しの係の生徒は「ありがとうございます。」「少々お待ちください。」など、事前に練習した接客の成果が出て、忙しい状況にも柔軟に対応することができます。邇摩高校の広報係の生徒からケーキの材料について質問され、調理班の生徒がきちんと答えている場面も見られました。

11月17日には、地域の方とボッチャ交流会を行いました。事前に雲南省スポーツ推進委員の方からボッチャのやり方を教えていただき、それを基に「雲南分ルール」を決めました。当日は、生徒が地域の方にやり方を説明してから対戦をしました。地域の方も優しく声をかけてくださいり、交流会が終わる頃にはすっかり打ち解けっていました。地域の方が日頃から雲南分教室のことを気にかけてくださっていることを直に感じることができました。

今後も地域とつながりながら、生徒たちの成長を支える学習に取り組みたいと考えています。



また、和太鼓部が「祭太鼓」「勇駒」の2曲を演奏し、息の合った力強い堂々とした演奏に、観客からは大きな拍手が沸いていました。このように地域の方々と直接触れ合つての販売や太鼓演奏の披露ができた一日となりました。



分教室神楽を作ろう！やつてみよう！

大田分教室教諭 原 剛 司

邇摩分教室主任 鎌田さとみ

邇摩高フエアに参加して

大田分教室

邇摩分教室

地域とのつながりを大切に

雲南分教室主任 福田由利恵

島根の魅力を満喫した修学旅行

みらい分教室教諭 勝田 黒堀 大輔 恵

雲南分教室

みらい分教室

小学校6年生3名は安来・松江・出雲に行つきました。安来では、たら製鉄でしか造ることのできない日本刀の魅力に触れたり、安来節演芸館での鑑賞を通して、「やっぱり本物はすごかった。」と感動を伝え合つたりしました。松江では、宍道湖エコクルーズ体験を通して、宍道湖と神西湖のしじみ漁の違いを知つたり、しじみのもつ力を知つたりすることができました。松江城見学では、ガイドの方が扮する石垣猿之助さんの案内のものと、武将になりきり、城や石垣に隠された秘密を学びました。故郷島根の魅力を改めて知つた2日間となりました。

中学部2年生3名は石見銀山や出雲大社などへ行きました。石見銀山ではシルバーリングの製作体験をしました。自分で好きな形を選んだり、文字を打ち込んだりしてとても素敵なりングができ、生徒たちは喜んでいました。出雲市内の自主研修では、事前にお金を使う計画を立てており、当日は家族のお土産や自分の好きなものなどの買い物を楽しんでいました。出雲大社ではみんなでご縁があるように参拝をしており、当日は家族のお土産や自分の好きなものなどの買い物を楽しんでいました。修学旅行で初めての体験をする生徒もあり、とても良い経験になりました。